報告

名古屋に残された自然遺産・シイ属の分布と特性に関する調査研究 浅井 正明

なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

Distribution and characteristics of genus Castanopsis in Nagoya City

Masaaki ASAI

Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan

要旨

シイ属は名古屋一帯の潜在自然植生で、長年にわたって燃料用材等として伐採が繰り返され、近年は開発や災害によってその多くが消滅した。謂うならば名古屋の自然遺産である。シイ属は、社寺境内地等においてわずかに残存していることが中部植生研究グループ(1991)から報告されているが、研究対象として目立った成果は報告されていない。そこで、市内のシイ属の現状を把握するため、シイ属林とシイ属大径木の分布を始め、樹林の規模・樹形・樹皮・樹木寸法・樹齢・堅果・種・遷移性等の特性について調査し、考察を加えた。

シイ属は59か所で確認され、調査した場所及び本数はシイ属林22か所107本、シイ属大径木37か所59本であった。シイ属林は、東部丘陵の守山区と緑区に多く見られ、内陸部の守山区を中心とする一帯はツブラジイが優占しており、海岸に近い南部の緑区一帯は、多くはスダジイが優占しているが、一部にツブラジイが優占する樹林や両種及び中間的な形質を持つもの(以降、中間種という)が混交していることが分かった。守山区と緑区の中間に位置する地域では、多くが両種や中間種と思われるものが混交していることが分かった。

これらの樹林の多くでは実生・幼木が育ち、照葉樹林として成長するポテンシャルが高いと思われた。また、中心部の中区を始め、残存している社寺境内地のシイ属大径木はほとんどが植栽木で、スダジイが圧倒的に多いことが分かった。最大のものは、樹齢概ね300年、幹まわり4mを超えていた。

背景と目的

名古屋一帯の潜在自然植生は、スダジイ及びツブラジイが優占する照葉樹林とされている。それらの樹林は、昭和30年代まで薪炭用材等のため過度な伐採が繰り返され、伐採を免れたシイ属林も戦災と1959年の伊勢湾台風の風水害で大きな被害を受けた。その後、化石燃料と都市的土地利用が優先され、未利用地と見なされた樹林地の大部分は開発によって消滅し、市民に意識されることはほとんどなくなった。

また,市内の社寺境内地や史跡等に樹齢100年から200年,あるいは300年以上と思われるシイ属大径木がわずかに残されているが,植栽された背景やシイ属林との関係について過去の調査では明らかにされていない。日本

の文化を培った照葉樹林と里山林は、全国的に見ると衰退・荒廃しており、里山林は生物多様性の観点から調査研究が進んでいるが、一方照葉樹林の代表種であるシイ属林については遅れている.

本調査研究の目的は、①現在、名古屋に残存しているシイ属林とシイ属大径木の分布を明らかにすること、②シイ属の各樹木特性を調査し、その特徴を明らかにすること、③シイ属自然林と植栽木の関係を明らかにすること、④シイ属が残存している土地の属性を調査し、保全が担保されているかを明らかにすることである。

調査方法

調査か所は、シイ属が生育しているであろうと思われ

る自然林及び社寺林を中心に踏査した. 調査は、確認さ れたシイ属のうち自然植生と思われる樹林及び、江戸時 代以前からの由来を有する土地に生育する大径木(幹ま わり1.5m以上)を対象とした. 樹木寸法は原則として胸 高幹まわり(高さ1.2m)を計測した. ただし、胸高付近 で幹が分岐しているものはその下部の幹まわり、根元付 近で分岐しているものは根元まわりと、それぞれの幹の 胸高幹まわりを計測した. 計測は. 確認できた全数を目 標としたが、予想よりも多数であったことや急傾斜地等 の悪条件もあって、主たる樹木について行った、立ち入 りができないものについては、過去の記録または目測寸 法を記述した。また、調査樹木ごとに堅果を採集し、全 数の形態を観察し、ノギスで寸法を計測し、標本を作成 した. スダジイとツブラジイの分類は次の4点の堅果の 形質の差異に基づいて行った. ①ツブラジイの堅果長は 6~13mmでありスダジイの堅果長は12~20mmである (阿部・伊達, 2007; 山田, 2007). ②両種の雑種と考え られる中間種の存在が明らかにされている (山田, 2006). ③スダジイは先端が必ず一方に曲がっているの でツブラジイと区分できる (阿部・伊達, 2007). ④ツ ブラジイはほぼ球形で,直径8~10mmくらい,生時は黒 色で乾くと褐色となるが、スダジイは円錐状卵球形で先 は鋭形で長さ15mm前後, 生時は黒褐色で乾くと褐色と なる(牧野ら, 2008). 樹形はタイプ別に区分し、樹皮は 裂け目の度合いを観察した. また. 調査樹木周辺におけ る実生・幼樹・若齢木・壮齢木・老齢木の生育状況や他 種からの被圧を観察し、シイ属林の遷移の方向性を推察 した.

調査結果と考察

1. シイ属林とシイ属大径木の樹木特性

踏査した箇所は83か所で、24か所では生育が確認できなかった。シイ属林は22か所で存続し、そのほとんどは急傾斜地か傾斜地に生育しており、シイ属が優占する1ha以上のまとまりをみると東谷山が最大で、次いで鷲津砦長寿寺、竜泉寺、桶狭間神明社、成海神社、細根公園の順となった。大径木は旧市街地に残る社寺を中心に37か所で確認され、最大のものは幹まわり4.08mであった。各調査樹木の樹形、幹まわり及び根まわり寸法、シイ属の優占度、堅果寸法、種、土地の属性に関する調査

結果は(表1)のとおりであった.

(1) 樹形と樹皮

樹木の形状は、①単幹のもの、②上部双幹のもの、③ 胸高部位で双幹や多幹のもの、④根元から多幹のもの、 ⑤古木で瘤や洞や捻じれを生じているもの、の5タイプ に区分された。シイ属は自然形では単幹で、枝がよく分 岐伸長し、樹冠が鬱蔽されるためシイ属林においては林 間や林床にほとんど植生が見られない、調査したシイ属 の多くは伐採・風・雷・腐食によって主幹が失われ、萌 芽更新によって複数の幹を伸ばしている。ある程度密生 し、人為的な手が入っていない慈眼寺・成海神社・桶狭 間神明社のシイ属林のように、単幹通直で美しい樹林を 形成しているものもあった。

幹の樹皮は若齢木から壮齢木では、ツブラジイの特徴である灰白色で平滑なものからスダジイの特徴である縦に深く裂けるものまで出現した。しかし、樹齢200~300年と思われる古樹は、両種とも裂け目が顕著であるものが多いことが分かった。若齢木から壮齢木に成長する過程で、樹皮の割れが生じる度合いはスダジイが顕著であり、この時期であれば両種の分類はある程度可能と思われるが、全体を通してみると中間種の混在、樹齢差や個体差があり、樹皮によって種を特定することは困難と思われた。

(2) 樹木寸法と樹齢

調査樹木166本のうち立ち入りができない等の理由で 測定できなかったものが29本あり、実測できたものは 137本であった. そのうち幹まわりの最大値は瑞応寺の 4.08mであった. 過去に記録のあるものを含めると、4m を超えるものが1本, 3mを超えるものが19本, 2mを超 えるものが62本、2m未満のものが37本、根元から幹が 分岐している樹木で根元まわりが最大のものは那古野山 公園の6.5mで、6mを超えるものが1本、5mを超えるも のが2本、4mを超えるものが6本、3mを超えるものが4 本、3m未満のものが2本、その他が3本であった。樹木 の生長量をみると、瑞応寺のツブラジイは、名古屋市の 保存樹指定時の測定値(昭和52年)3.3mから35年経過 後4.08m となり 0.78m 肥大生長した. 万福寺のスダジイ は同様に2.38mが3.29mとなり0.91m肥大生長した. 渡辺 (1991) によると大径木8種31本の年間幹まわり伸び率 は、平均値で17.7mmであるため35年では0.62mとなる.

表1. シイ属調査総括表

シイ属林調査箇所	番号	樹形	胸高幹まわり(m)	分岐部下幹まわり(m)	各幹の胸高幹まわり(m)	根元まわり(m)	優占度	堅果寸法 (mm)	堅果採集日	種名	土地の属性
守山区	1		-	-	1.38 • 1.59 • 1.48 • 1.44	4.1	高い	11.1 × 7.6	2013.1.25	ツブラジイ	県有林
東谷山	2		2.32	-		-		11.4 × 7.7	2013.1.25	ツブラジイ	
	3		2.09	-	_	_		13.1 × 9.1	2013.1.25	ツブラジイ	
	4	単幹	2.15	-	-	_		10.8 × 11.3	2013.1.25	ツブラジイ	
	5	胸高部双幹	_	2.85	2.18 • 1.32	_		10.7 × 8.4	2013.1.25	ツブラジイ	
	6		計測なし	-	_	-		12.4 × 9.3	2013.1.25	ツブラジイ	
	7		2.16	-	_	-		13.8 × 10.2	2013.1.25	ツブラジイ	
	8		2.36	-	_	-		14.2 × 8.6	2013.1.25	中間種	
	9		計測なし	-	_	-		13.0 × 9.6	2013.1.25	ツブラジイ	
守山区	10		3.47	-		_	高い	14.4 × 9.0	2013.1.25	中間種	社寺境内
竜泉寺	11	単幹	2.57	-		-		12.4 × 8.2	2013.1.25	ツブラジイ	
	12	単幹	2.59	-	_	-		採集不可	採集不可	不明	
守山区	13	単幹	1.23	-	_	_	中位	12.6 × 9.0	2013.2.12	ツブラジイ	民有林
倶利伽羅寺周辺	14	単幹	2.42	-	_	_		13.0 × 9.3	2013.2.12	ツブラジイ	
	15	観察なし	計測なし	-	_	_		13.7 × 9.2	2013.2.12	ツブラジイ	
守山区	16	単幹	1.51	-	_	_	低い	11.5 × 9.4	2013.2.12	ツブラジイ	都市公園
竜巻池周辺	17	単幹	1.95	_	_	_		11.6 × 8.7	2013.2.12	ツブラジイ	
守山区	18	単幹	2.5	-	_	_	高い	採集不可	採集不可	不明	社寺境内
大森寺	19	根元双幹	_	計測なし	2.24 • 1.44	3.45		13.7 × 10.4	2013.2.12	ツブラジイ	
	20	単幹	2.52	_	ı	_		11.5 × 7.9	2013.2.12	ツブラジイ	
	21	観察なし	計測なし	_	_	_		12.1 × 9.4	2013.2.12	ツブラジイ	
	22	観察なし	計測なし	_	ı	_		10.6 × 9.6	2013.2.12	ツブラジイ	
守山区	23	上部多幹	2.72	-	_	_	低い	13.0 × 10.4	2013.2.12	ツブラジイ	社寺境内
八剱社	24	単幹	計測なし	-	-	-		12.9 × 10.7	2013.2.12	ツブラジイ	
	25	胸高部双幹	-	2.95	-	3.7		11.9 × 8.6	2013.2.12	ツブラジイ	
	26	上部双幹	計測なし	-	-	-		13.5 × 9.0	2013.2.12	ツブラジイ	
守山区	27	単幹	2.21	-	_	-	低い	12.6 × 9.3	2013.2.12	ツブラジイ	大学構内
金城学院大学	28	単幹	1.81	-	_	-		11.4 × 10.5	2013.2.12	ツブラジイ	
	29	根元双幹	-	-	2.01 • 1.22	3.15		12.4 × 7.6	2013.2.12	ツブラジイ	
千種区	30		-	-	2.08 • 1.16	-	中位	12.9 × 8.7	2013.1.17	ツブラジイ	大学構内
名古屋大学	31		-	-	1.06 • 0.95	_		19.4 × 8.0	2013.1.17	スダジイ	1
-	32		計測なし	-	-	-		16.9 × 8.6	2013.1.17	スダジイ	
	33	単幹	2.12	-	-	_		20.7 × 8.5	2013.1.17	スダジイ	
	34		2.36	_	_	_		採集不可	採集不可	不明	
東区	35	上部双幹	2.9	-		_	高い	12.8 × 9.0	2013.1.30	ツブラジイ	都市公園
徳川園	36		_	_	1.80・1 本枯死	_	180	16.9 × 9.1	2013.1.30	スダジイ	100000
1007-11111	37	単幹	1.06	_	-	_		18.1 × 9.4	2013.1.30	スダジイ	
	38	上部双幹	2.43	_	_	_		12.9 × 10.7	2013.1.30	ツブラジイ	
	39			_	1.35 (7本立ちのうち最大値)	4.2		17.2 × 9.0	2013.1.30	スダジイ	
	40	単幹	1.96	_	-	-		13.8 × 9.0	2013.1.30	ツブラジイ	_
	41	根元多幹	-	-	1.09 • 1.33 • 1.55 • 3.26	計測なし		16.4 × 9.4	2013.1.30	スダジイ	
	42	単幹	計測なし	_	-	-		13.7 × 11.3	2013.1.30	ツブラジイ	1
	43	根元多幹	- ning/a C	_	 計測なし	計測なし		12.6 × 10.5	2013.1.30	ツブラジイ	-
	44	単幹	3.85	_		-		16.3 × 8.8	2013.1.30	スダジイ	1
	45		-	_		_		17.9 × 8.4	2013.1.30	スダジイ	+
名東区	46	胸高部双幹 単幹	1.93	_	3.26, 1.06	_	低い	採集不可	採集不可	 不明	都市公園
ロ米丘 牧野ヶ池緑地	47	単幹	1.48	_			15.0	18.0×11.3	2012.12.24	スダジイ	图文中语
1大生ピケールでは	48	胸高部双幹	1.46	3.15	2.15, 2.07			20.9 × 11.1	2012.12.24	スダジイ	-
天白区	49	上部双幹	2.08	-	2.13, 2.07	_	高い	16.4 × 10.5	2012.12.24	スダジイ	都市公園
	50		1.94	_	_	_	同()	16.4 × 9.9	2013.1.9	スダジイ	图立山印
稲葉山公園	51	単幹	2.39	_		_		15.4 × 9.7	2013.1.9	ー スタン1 中間種	1
	52	単幹	1.94	_		_		採集不可	採集不可	不明	-
	53	根元多幹	1.94	_	0.90 • 2.03 • 0.82	2.87		抹朱不可 14.3×11.0	抹果不可 2013.1.9	<u> </u>	
			_	_							+
工力区	54				2.1 • 0.77	_	古い	13.7 × 9.5 12.0 × 10.0	2013.1.9	ツブラジイ	
天白区 砂藤山兹眼寺	55	単幹	2.05 1.98	_		_	高い		2013.1.10	ツブラジイ	社寺境内
秋葉山慈眼寺	56			_		_		13.2 × 10.0	2013.1.10	ツブラジイ	+
	57	単幹	2.25	_		_		12.1 × 8.3	2013.1.10	ツブラジイ	+
	58 59	単幹	2.2					12.6×11.2		ツブラジイ	+
瑞穂区		単幹	2.42	_		_	高い	採集不可 15.6×10.7	採集不可 2013.1.17	不明 中間種	市公共施設
東山荘	61		1 2.32 計測なし	_	_	_	l⊟) Ç.	16.4 × 9.9	2013.1.17	スダジイ	リロム大地部
				_		_					+
	62		計測なし 2.37	_		_		16.3 × 11.6 18.4 × 9.3	2013.1.17	スダジイ スダジイ	+
熱田区			2.37	_		_	/EI\				九土坤
熱田神宮	64	上部双幹 単幹	2.35	_		_	低い	採集不可	採集不可	不明 不明	社寺境内
			1.85	_		_		採集不可	採集不可		+
	66	単幹		_		_		採集不可	採集不可	不明 スダジイ	+
	67 68		2.45 計測なし	_		_		21.2 × 10.6 19.0 × 8.5	2013.2.8 2013.2.8		+
			計測なし	_		_		19.0 × 8.3	2013.2.8	スダジイ	+
	69	上部X軒 胸高部双幹	計測なし	計測なし	 計測なし	_		18.5 × 11.0 18.2 × 9.0	2013.2.8		
	70		計測なし	計測なし	計測なし -	_		21.0 × 10.7	2013.2.8	スダジイ スダジイ	+
	72		計測なし	計測なし	 計測なし	_		21.0 × 10.7 20.9 × 9.5	2013.2.8		1
数田区	73					_	声い	-	2013.2.8	スダジイ	和士八压
熱田区 白鳥御陵			1.87	_	計測なし	_	高い	19.1 × 9.3 21.1 × 8.7			都市公園
	74		1.92						2013.2.8	スダジイ	
H MO INFOX	75		2.33	-	-	_		17.7 × 8.3	2013.2.8	スダジイ	+
H MO IPPIX	76		-	3.12	_	-	<u></u>	17.0 × 8.8	2013.2.8	スダジイ	41
		単幹	2.02	-	-	-	高い	16.9 × 10.6	2013.1.21	スダジイ	社寺境内
禄区	77	34+A		_	_	_		17.2 × 10.4	2013.1.21	スダジイ	
禄区	78		1.71			1					
緑区	78 79	胸高部多幹	-	2.71	-	-		15.2 × 8.6	2013.1.21	中間種	
緑区	78 79 80	胸高部多幹 単幹	2.21	2.71 —	-	-		17.1 × 9.6	2013.1.21	スダジイ	
緑区成海神社	78 79 80 81	胸高部多幹 単幹 根元双幹	2.21 —	2.71 — —	- 1.71 • 1.49			17.1 × 9.6 14.7 × 10.5	2013.1.21 2013.1.21	スダジイ 中間種	
緑区	78 79 80	胸高部多幹 単幹 根元双幹	2.21	2.71 —	-	-	高い	17.1 × 9.6	2013.1.21	スダジイ	社寺境内

		ř	桟井(2014)	名古屋に残され	した自然遺産・シイ属	の分布と特	生に関う	よる調査研究	E L		
シイ属林調査箇所	番号	樹形	胸高幹まわり(m)	分岐部下幹まわり(m)	各幹の胸高幹まわり(m)	根元まわり(m)	優占度	堅果寸法 (mm)	堅果採集日	種名	土地の属性
緑区	85	上部双幹	2.12	-		_	高い	18.6 × 11.3	2013.2.5	スダジイ	社寺境内
鷲津砦明忠院	86	単幹	2.01	-	-	_		16.4 × 11.0	2013.2.5	スダジイ	
緑区	87	根元多幹	_	-	1.42 • 1.4 • 1.35 • 1.38 • 1.33	4.2	高い	15.5 × 8.4	2012.12.19	スダジイ	都計公園
細根公園	88	胸高部多幹		2.5		-		15.6 × 9.0	2013.1.7	スダジイ	
	89 90	単幹	1.73	_		_		採集不可	採集不可	不明	
	90	単幹	2.15	_		_		採集不可	採集不可	不明	
	91	単幹	1.86 1.93	_		_		採集不可採集不可	採集不可 採集不可	不明不明	
緑区	93	単幹	2.57	_		_	高い	73.7×9.5	2013.1.22	ツブラジイ	社寺境内
林 格 孫 間神明社	94	単幹	1.61	_		_	同心,	14.3 × 9.2	2013.1.22	中間種	社分規內
悄伏间怦听红	95	単幹	2.39	_		_		14.8 × 9.4	2013.1.22	中間種	
	96	単幹	1.97	_				14.4 × 9.9	2013.1.22	中間種	
	97	単幹	1.98	_				13.8 × 8.7	2013.1.22	中間種	
緑区	98	単幹	2.76	_		_	低い	14.7 × 9.0	2013.1.22	中間種	都市公園
大高緑地	98	根元双幹	2.76	_	1.77 · 2.43	4	150.	24.1 × 9.0	2013.1.7	アル世	图스타네타
ノへに口小水・巴	100	板兀X軒 単幹	1.07	_	1.77 * 2.43	4		17.7 × 9.0	2013.1.7	スダジイ	
	100	胸高部多幹	-	2.27	 計測なし	_		17.7 × 9.0 19.6 × 9.2	2013.1.7	スダジイ	_
	101	根元多幹	_	2.27	計測なし	3.25		19.0 × 9.3	2013.1.7	スダジイ	
	103	胸高部多幹	_	計測なし	計測なし	3.23		19.9 × 8.8	2013.1.7	スダジイ	
緑区	103	上部双幹	2.45	- n my/s C	——————————————————————————————————————	_	中位	12.0 × 8.3	2013.1.7	ツブラジイ	社寺境内
	104	単幹	1.59	_			中世	11.6 × 8.2	2013.1.7	ツブラジイ	私寸規內
ハエが 1 竹江	106	根元多幹	1.59	_	1.60 • 1.89 • 1.72	計測なし		12.4 × 9.1	2013.1.7	ツブラジイ	
	107	単幹	計測なし	_	-	- BI M9/3 C		12.7 × 8.0	2013.1.7	ツブラジイ	
	107	++1	B17/5/6 C			1		12.7 / 0.0	2013.1.7	77771	
シイ属大径木調査箇所	番号	樹形	胸高幹まわり	分岐下部幹まわり	各幹の胸高幹まわり	根元まわり	生育本数	堅果寸法	堅果採集日	種名	土地の属性
北区	108	単幹	4.08	-	_	-	5本以上	10.1 × 8.4	2013.6.13	ツブラジイ	社寺境内
瑞応寺	109	根元双幹	-	_	2.04 (主たる幹)	_	3.4.57.	採集不可	2013.6.13	不明	12 (3 -56)
-107013	110	根元双幹	_	-	3.0 (主たる幹)	_		採集不可	2013.6.13	不明	
	111	単幹	2.74	-	_	_		10.1 × 8.9	2013.6.13	ツブラジイ	
守山区白山神社	112	上部双幹	計測不可	-	_	_	1本	採集不可	採集不可	不明	社寺境内
西区新福寺	113	胸高部多幹	計測不可	(文献3.8m)	_	_	2本	採集不可	採集不可	スダジイ(文献)	社寺境内
西区伊奴神社	114	胸高部双幹	計測不可	(文献3.1m)	_	_	1本	17.1 × 10.1	2012.12.26	スダジイ	社寺境内
東区長母寺	115	根元多幹	-	-	3.0 • 2.3 • 1.28 • 0.95	計測なし	2本以上	11.4 × 10.4	2013.1.17	ツブラジイ	社寺境内
千種区城山公園	116	胸高部双幹	-	2.5	2.38 · 1.58	-	1本	採集不可	採集不可	不明	都市公園
中区名古屋城(深井丸)	117	根元多幹	-	-	1.80 • 1.54 • 2.17	5.1	5本以上	採集不可	採集不可	スダジイ(文献)	都市公園
中区名古屋城(二の丸)	118	単幹	3.33	-	_	-	1本	10.8 × 10.6	2013.1.30	ツブラジイ	都市公園
中区市役所	119	単幹	3.17	-	_	-	1本	16.3 × 12.4	2012.12.26	スダジイ	市公共施設
中区	120	胸高部双幹	-	-	1.58 • 1.84	5	2本以上	16.4 × 11.2	2012.12.26	スダジイ	都市公園
三の丸庭園	121	単幹	1.83	-	_	_		採集不可	採集不可	不明	
中区旧栄公園	122	単幹	1.92	-	-	_	1本	15.9 × 8.1	2013.1.6	スダジイ	都市公園
中区	123	単幹	3.15	-		_	3本	19.1 × 10.9	2013.2.2	スダジイ	都市公園
那古野山公園	124	根元双幹	-	-	2.96 • 1.98	6.5		18.0 × 9.9	2013.2.2	スダジイ	
	125	単幹	3.13	-	_	_		19.2 × 9.9	2013.2.2	スダジイ	
中区富士浅間神社	126	単幹	(推定3m以上)	-	_	_	1本	採集不可	採集不可	不明	社寺境内
中区	127	上部双幹	1.36	-	_	-	3本	22.1 × 10.5	2013.2.2	スダジイ	社寺境内
崇覚寺	128	上部双幹	1.42	-	_	_		18.8 × 10.9	2013.2.2	スダジイ	
中区東本願寺	129	単幹	2.07	-	_	-	1本	18.7 × 10.4	2013.2.2	スダジイ	社寺境内
中区	130	上部双幹	1.6	-		_	2本	19.7 × 10.8	2013.2.2	スダジイ	都市公園
下茶屋公園	131	胸高部双幹	_	2.24	1.36 • 1.74	_		17.7 × 9.4	2013.2.2	スダジイ	
中村区八幡社	132	上部双幹	2.11	-		-	1本	17.6 × 11.4	2013.1.30	スダジイ	社寺境内
中村区正賢寺	133	単幹	2.2	-	_	_	1本	採集不可	採集不可	不明	社寺境内
天白区	134	単幹	1.48	-		-	3本	19.1 × 10.6	2013.1.24	スダジイ	社寺境内
善光寺	135	単幹	1.32	-	_	-		21.2 × 10.5	2013.1.24	スダジイ	
昭和区香積院	136	単幹	2.83	-	_	-	3本	13.0 × 9.3	2013.1.8	ツブラジイ	社寺境内
瑞穂区暮雨巷	137	単幹	(推定 1.9m)	-	_	-	2本	11.6 × 10.7	2013.1.17	ツブラジイ	社寺境内
熱田区	138	上部双幹	2.12	-	_	-	5本以上	17.6 × 11.1	2013.2.8	スダジイ	都市公園
熱田神宮公園	139	単幹	計測なし	-		_		18.4 × 11.4	2013.2.8	スダジイ	
	140	観察なし	計測なし	-		-		採集不可	採集不可	不明	
熱田区	141	胸高部双幹	_	2.92	1.61 • 1.88	_	3本	採集不可	採集不可	不明	社寺境内

瑞応寺と万福寺の肥大生長は0.78mと0.91mでその平均値は0.85mとなり、渡辺(1991)の平均値と比べると3割程生長量が大きい。樹齢と幹まわりの関係をみると、中村公園のスダジイは樹齢約100年で幹まわり2m前後である。萩原(1988)の調査によると、国立自然教育園で倒木したスダジイ3本の樹齢と寸法は、植栽年1750年前後(樹齢約240年)で胸高直径が0.72m,0.75m,1.13mで幹まわりに換算すると概ね2.3m~3.5mといえる。徳川園が1690年(創建年)植栽を妥当とすると、樹齢約300年で幹まわり3.5m程度である。従って、目安として100年で2m程度、200年で3m程度、300年で3.5m程度と推測できる。

(3) 堅果

調査樹木166本のうち、堅果が採集できたものは137本、できなかったものが29本であった、採集した堅果は、ツブラジイの特徴からスダジイの特徴まで連続して出現した(図1). 形状と寸法が中間領域にあるものも多く存在し、どちらとも判別できないものは中間種として扱った. したがって、東谷山のツブラジイ群集の中で、堅果が中間的な形質を持っていた1本は中間種として扱った. 大きな群集を構成する1本1本の堅果の差異について理由を明らかにする課題が残った.

ツブラジイは採集本数50本のうち、縦の長さは最大値 14.3mm, 最小値10.1mm, 平均値12.3mm, 横の長さは 最大値11.3mm, 最小値7.6mm, 平均値9.4mmであった. 主な形状タイプは、①縦・横寸法にほとんど差異がなく、 小粒で球状のもの、②小粒であるが縦がやや長いもの、 ③縦・横の差異は少なくやや大きめの粒のもの、の3種 類であった. 色は、多くが黒色か黒と黄褐色の縦縞模様 であった。スダジイは採集本数74本のうち、縦の長さ最 大値24.1mm, 最小値15.5mm, 平均値18.2mm, 横の長 さ最大値12.6mm, 最小値8.1mm, 平均値9.9mmであっ た. 主な形状タイプは①縦が横より明らかに長く長卵円 形のもの、②縦が横よりやや長く丸みがあるもの、③ズ ングリとしたおむすび状の三角形をしているもの。④全 体にやや長めで丸みがあり先端が反り返っているもの. の4種類であった. 色はほとんどのものが茶褐色の単色 で、中には表面に薄い毛が密に生えるものや黒色のもの や黄褐色の縦縞が入るものがあった. 中間種と思われる ものは採集本数13本のうち、縦の長さ最大値15.6mm、最

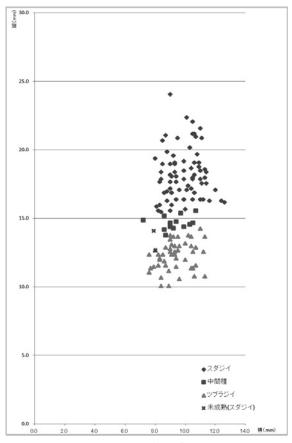


図1. 堅果形状分布図

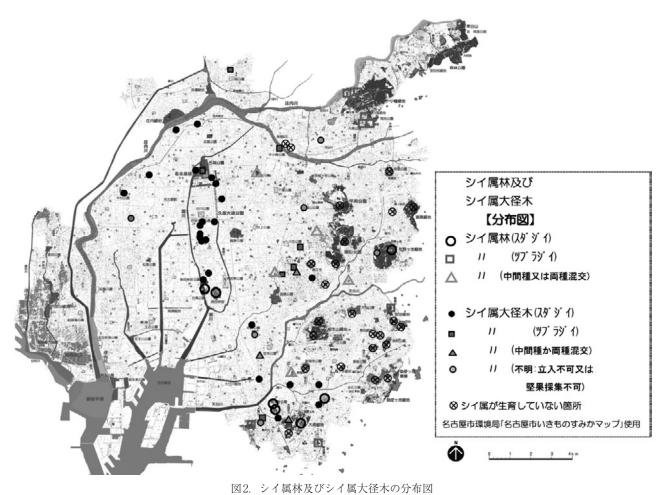
小値13.8mm, 平均値14.7mm, 横の長さ最大値10.7mm, 最小値7.2mm, 平均値9.3mmであった. 形状は①比較的ツブラジイに似るが, 縦が横よりやや長く丸みを帯びたもの, ②①と似るが堅果の先端が反って尖っているもの, の2種類であった. 色は黒と黄褐色の縦縞が入るもの, 暗茶褐色のもの, 薄い茶褐色のものがあった. これらから, 堅果の形状と寸法について, 文献にある数値や形状と異なるものが確認され, 生育地・個体・気象等の条件によって異なると思われた. 最終的にはDNA解析も含めて精密に調査分析しなければ種は特定できないと考えられた.

2. シイ属林及びシイ属大径木の分布

シイ属林が残存分布している東部丘陵は, 竜泉寺丘陵, 東山丘陵, 鳴子丘陵, 有松丘陵を構成する矢田川累層(下位から砂礫層・泥質層・礫層), 八事層(シルト・砂・砂礫の互層) で成りたち(新修名古屋市史編集委員

会, 1997), シイ属はその比較的乾いた斜面地に生育し ている. 中部植生研究グループ (1991) によると、守山 区を中心とする内陸側ではツブラジイ・サカキ群集、緑 区を中心とする沿岸側ではスダジイ・ヤブコウジ群集と されている. 今回の調査で、ツブラジイ林は守山区東谷 山一帯、龍泉寺一帯、小幡緑地一帯、大森地区一帯から 東区木が崎長母寺、北区如意瑞応寺まで守山区一帯を中 心に広く分布しており、瑞応寺には幹回り4.08mの市内 最大木が残されている. スダジイ林は緑区鷲津砦長寿 寺. 明忠院. 細根公園. 成海神社において極相林または 優占林が見られる. また、緑区桶狭間神明社はツブラジ イと中間種と思われる個体が混交する極相林となってお り、氷上姉子神社にはツブラジイの群生が見られる。守 山区一帯と緑区一帯に挟まれた天白区、瑞穂区、昭和区、 千種区、東区にあるシイ属林は、天白区慈眼寺のように 典型的なツブラジイ林もあるが、千種区名古屋大学、東

区徳川園, 瑞穂区東山荘, 天白区稲葉山公園のように両 種が混交していたり、中間種が混在しているものがあっ た。このことは守山区一帯を除いた区域では、かって広 範囲に両種が混交しており、長い年月をかけて交配が進 んでいたところ、乱伐や都市化に伴って樹林や土地が分 断され、スダジイ林・ツブラジイ林・中間種の樹林・両 種が混在する樹林が孤立林として存続することになった と考えられる. 全体的に近年実生更新した若いシイ属林 が多く、樹齢50年から100年くらいと想定される。中に は風水害から免れた200年から300年の老齢樹を含む樹 林も残っている. その他, 市の中心部にある熱田神宮や 白鳥御陵のようにスダジイの植栽木や実生更新したもの が、他の高木種と混交して生育している場所がある.シ イ属林及び単独の大径木が残っている場所では、社寺境 内地が調査本数166本のうち80本で50%を占めている. 社寺、史跡などに残るシイ属大径木は、全国的にシイノ



キが社寺林に植えられたこと、豊明・高徳院のタブノキのように近在の大木が移植された(現地立札)こと、牧野(編)(1901)によると、江戸時代から植木屋が社寺境内に出店されていたこと、また今回採集した堅果が場所によって形・寸法・色が異なることから判断すると、植栽木と思われる。これらの大半は堅果の大きいスダジイで、防火対策や救荒植物としての利用や、腐朽し難く利用価値が高い(山田、2007)ことから選択して植栽されたものと思われる。しかし同時に、壮大さと長寿を誇るクスノキが、熱田神宮、村上社、田光八幡社を始めとして社寺境内地に植栽されるようになった。その後、クスノキは頻繁に植栽され、天然更新が進みシイ属を圧倒してきた。名古屋市の保存樹がシイ属が14本、クスノキが355本をみても明らかである(図2)。

3. 箇所別調査結果

箇所別の調査結果は、図3から図61にまとめた(シイ 属林22か所、シイ属大径木37か所)。

まとめ

名古屋のシイ属の分布に関しては、今まで記録されていない樹林や大径木を確認することができ、ほぼ全容が把握できたと思われる。また、自然由来のものと人為のものとに概ね区分することができたと思われる。小林(2012)によるとスダジイの確実な自生は豊橋市沿海部にあるだけとされているが、ツブラジイとスダジイの自生種の存在と中間種の特定については、今後DNA解析によって明らかにされることを期待する。今回調査した限り、名古屋市内におけるシイ属存続の危機意識は拭い去ることはできなかった。危機的状況の原因は、生育地の破壊・成長抑制のための枝打・根元の裸地化・ナラ枯れや腐朽菌の進行・モウソウチクやクスノキによる被圧等である。今回は実生・幼樹・若齢木等について調査を行わなかったため、西日本各地で報告されているシイ属の拡大動向との関連を客観的に述べることはできなかった

が、鷲津砦長寿寺・明忠院のスダジイ林を除くシイ属林では、実生や幼木が生育しており、生育域を拡張するポテンシャルは高いと思われた。名古屋市内の緑地において、落葉樹林とシイ属林の分布バランスを考えると、まだまだシイ属林は圧倒的に小規模である。したがって、土地の保全と適正な管理、被圧している樹木や竹林の対策等を実行し、保全に努めることが重要である。過去における名古屋のシイ属林分布の変遷を明らかにし、今後のシイ属林の遷移動向を予測する必要がある。

引用文献

阿部弘和・伊達千絵. 2007. 山口県のドングリ:マテバシイ属とシイ属の分布. 研究論叢 自然科学, 57:113-124. 中部植生研究グループ. 1991. 名古屋市の植生, pp.51-55. 名古屋市計画局都市計画部都市計画課.

深田正韶. 1979. 尾張志 上卷, pp.304-305. 愛知県郷土資料刊行会.

神戸直三郎(編). 1935. 門前町史雑記, pp.36-37.

小林元男. 2012. 愛知県樹木誌, pp.111.

牧野市太郎 (編). 1901. 門前町誌, pp.15.

牧野富太郎·大橋広好·邑田仁·岩槻邦男. 2008. 新牧野日本植物圖鑑, pp.39-40. 北隆館.

名古屋市教育委員会(編). 1970. 名古屋の史跡と文化財, pp.294. 名古屋泰文堂.

荻原信介. 1985. スダジイ巨樹の肥大成長様式の解析. 自然 教育園報告. 16:47-66.

新修名古屋市史資料編編集委員会(編). 2008. 新修名古屋市史資料編自然, pp.54-55. 名古屋市.

山田浩雄. 2006. スダジイとコジイの中間タイプとその地理的な出現地域. 林木遺伝資源情報53. 独立行政法人林木育種センター.

山田浩雄. 2007. 分布域を網羅したシイノキ属のコレクション. 林木遺伝資源情報64. 独立行政法人 林木育種センター.

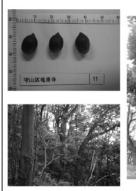
渡辺新一郎. 1999. 巨樹と樹齢, pp.254-256. 新風舎.





北西山麓から山頂にかけて大規模なツブラジイ優占林が分布している。 主に県有林で自然環境保全地区に指定されている。幹まわり2.85mや根元 まわり4.1mの老齢木から実生木まで幾世代にわたって生育している。この まま遷移するとツブラジイの極相林に成長すると思われる。

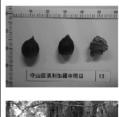
図3. 守山区東谷山





境内及び庄内川へ下る崖にツブラジイ優占林が生育し、本堂付近には樹 齢300年程度の幹まかり3.47mの古木が残る。驀地や堂宇の造営等によって シイ林は減少したが、寺周辺一帯にもシイ林が点在しており、かっての極 相林の規模がしのばれる。

図4. 守山区竜泉寺







寺周辺の山地にツブラジイが分散生育し、場所によっては群生している。 国道に向け急峻な北側斜面地に幹まわり2.42mを始め単幹通直の壮齢木が 多い、若齢木や実生も生育し、存続のポテンシャルは高いが民有林であり 開発が危惧される。

図5. 守山区倶利伽羅不動寺周辺樹林群

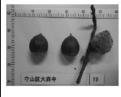






小幅緑地内竜巻池の北側と南側斜面地の二次林に幹まわり2.0mのツブラジイを始め、若齢木や実生が広範囲に生育している。現在は落葉樹林が優占するが、将来はシイ属が優占する樹林となることが予測される。

図6. 守山区竜巻池周辺樹林群







境内の南側から西側にかけて幹まわり2.52mや根元まわり3.45mのツブ ラジイを始め、古木が数多く残り、北側の墓所は自然地形で壮齢のツブラ ジイが優占する樹林となっている。東側はモウソウチク林が優勢で将来シ イ林との競合が危惧される。

図7. 守山区大森寺







南向き斜面地に建つ本殿の脇に幹まわり2.95mの神木を始め、ツブラジ イの大径木を含む混交林が生育している。境内は整備拡充され、西側山林 は伐採後、落葉樹が更新した樹林となっている。

図8. 守山区八剱神社





キャンパスや講堂付近に幹まわり2.21mのツブラジイの大径木を始め、 壮齢木が残されている。山林はシイを含む常緑樹と落葉樹との混交林となっている。かっては大森寺・八剱神社につながるツブラジイの広大な極相 林であったと思われる。隣接する八竜緑地にはシイノキは生育していない。

図9. 守山区金城学院大学



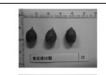






山手通り東側, 大学(工学部)構内の斜面地にスダジイの優占林(一部 ツブラジイが混じる)が生育している。幹まわり2.36mを始めとする樹林 で双幹や根元多幹のものが多く,樹形は不ぞろいで自然形のものが少ない。

図10. 千種区名古屋大学









大曽根御屋敷造営から320年の歴史を有し、幹まわり3.85mを始めスダジイとツブラジイの大径木が混交して生育している. 起伏に富んだ山や渓谷を築き、植栽されたシイ属林は鬱蒼とした森となったが、戦災や伊勢湾台園で大き被害を受けた. 2004年に日本庭園を造営した折、老朽木などを伐採し明るくなった.

図11. 東区徳川園



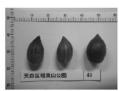




ゴルフ場整備や戦後の農地解放で土地が大きく改変された、ゴルフ場西側の山林はモウソウチクが優占しているが、幹まわり1.93mのシイノキ(種は不明)が生育している。また、池東南部などに植栽されたスダジイが、幹まわり3.15mを始めとする樹林に成長し周辺に実生木が生育している。

図12. 名東区牧野ヶ池緑地







山の南半分の急な斜面地に幹まわり2.39mを始めとするスダジイ,ツブ ラジイ,中間種が混交して生育している.かって全久寺,全久寺の後山と して乱伐を免れ,老齢樹から実生木までよく生育している.

図13. 天白区稲葉山公園







境内北東側の緩い傾斜地に幹まわり2.25mの壮齢樹を中心とするツブラジイの英林が生育している。また、社殿北側の山林にも幹まわり2.4mの大径木を含むシイ林が残存している。かっては、広く群生していたと思われるが、墓域の拡充等により減少している。

図14. 天白区秋葉山慈眼寺

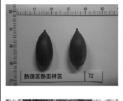






関静な住宅街の一角にあって、南側のなだらかな斜面地にスダジイの優占林(中間種が混じる)が生育している。単幹通直で最大のものは幹回り2.37mで樹勢は旺盛である。回遊式庭園の一角を成し、自然林と日本庭園を巡ることができる。

図15. 瑞穂区東山荘







境内全域にわたって幹まわり2m以上のスダジイが分散生育し、神木にもされている。1900年の歴史があるが、大規模な海営の都度、伐採と植栽が織り返され、また戦災や伊勢湾台園で大きな被害を受け、クスの巨樹以外に古代の森の姿を留めるものは少ない。

図16. 熱田区熱田神宮







古墳中酸から山頂部にかけて幹まわり3.12mを始めとするスダジイの樹林が生育している。 天保8年(1837)の台風で墳上の樹木が吹き飛び養石が出現した記録があることから(愛知県郷土資料刊行会,1979),現在の姿は200年程前に修復され、植栽されたものと思われる。

図17. 熱田区白鳥御陵







本殿裏手に大規模なスダジイの優占林(中間種混じる)が生育している。 樹齢は50年から100年程のものが多く、幹まわり2.71mの古木も混じる。伊 勢済台風の被害や駐車場の整備等でシイ林は減少し、一部の区域はクスや モウソウチクに圧迫されている。

図18. 緑区成海神社







長寿寺後背の鷲津砦跡に生育する市内最大規模のスダジイ林である。幹まわり2.86m、樹齢300年程の老齢木も生育しているが、実生や若齢木が少ない、ギャップにはモチやサカキなどが生育し、全体にスダジイの樹勢は衰えている。自生のスダジイ林が確認が待たれる。

図19. 緑区鷲津砦公園・長寿寺







鷲津砦公園の近隣に位置し、寺院の参道に沿った東側斜面地に幹まわり 2.12mを始めとするスダジイが優占している。斜面頂上部は宅地造成が進み、若齢木も貧相で樹林は衰退している。堅果は鷲津砦と同一で、かってこの一帯が大規模なスダジイ林で覆われていたことがうかがえる。

図20. 緑区鷲津明忠院

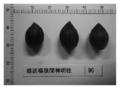






都市計画細根公園の南西側斜面地(かっての細根山史跡や墓地)に残存 している大規模なスダジイ林で、根元まわり4.2mの老齢木から幼樹まで幾 世代にわたって生育している。モウソウチク林の侵入が顕著で地元が除伐 活動を行っている。

図21. 緑区細根公園

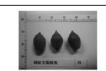






幹まわり2.57mのツブラジイの立て札によると、昭和34年の伊勢湾台風で 老齢木が数多く側伏し、生き残った樹齢数百年のシイノキとある。本殿を取 り巻く緩やかな起伏のある土地に大規模なツブラジイ林 (中間種が混しる) が成立している。多くは伊勢湾台風後に天然更新した樹木で幹まわり2.5mか ら1.5mのものが多い、一部の区域はクスやモウソウチクの侵入が見られる。

図22. 緑区桶狭間神明社



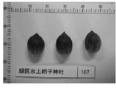






西側山中の中腹に幹回り2.76m樹高20mの中間種と思われものと、尾根 部にスダジイの大径木とその子橋が生育している。中南部の交通公園駐車 場脇には、萌芽更新した10数本のスダジイの植栽木が鬱蒼としている。異 なる3種のシイノキが生育している。

図23. 緑区大高緑地







本殿参道の両側にツブラジイが生育し、東側斜面地に幹まわり2.45mの 壮齢木を含むツブラジイが群生している。西側には根元から3つに分岐し た老齢の大径木が残存し、100mほど離れた元宮の祠の前に壮齢のツブラ ジイが生育している。

図24. 緑区氷上姉子神社







山門を潜ると参道の両側にツブラジイの巨樹が7本保存され、深い鎮守 の森の様を醸し出している。幹まわり4.08mと今回計測した中では最大で あり、次いで3.0m、2.74mの順となっている。中には腐朽の進んでいるも のもあった。守山区一帯や小牧・春日井のツブラジイと遺伝的関係が明ら かにされることが待たれる。

図25. 北区瑞応寺



本殿東側にシイノキの古木が残存し、保存樹指定時の測定(昭和52年度) は幹まわり2.6mであった。中に立ち入ることができないため樹種は確認で きないが、スダジイとして登録されている。守山区一帯のツブラジイが社 寺に取り込まれたのではなく、植栽されたものということになる。

図26. 守山区白山神社



現在閉鎖されている本堂裏庭にスダジイが2本生育している。今回実測できなかったが、中部植生研究グループ (1991) によると幹回り3.8mで市内最大と記録されている。胸高位で4本の幹に分岐し生育は旺盛だが、周囲の住宅に配慮して強度な校打ちが行われ、幹から勢いよく胴吹きしてい

図27. 西区新福寺



現地看板によると樹齢800年のスダジイの古木で白蛇が棲むといわれている。事実であれば1200年代(鎌倉時代)のものでシイノキの寿命と庄内川のほとりの低湿地であることを考えると疑わしい。保存樹指定時の測定(昭和52年度)は幹回り3.1mであった。主幹は腐朽が進み洞が生じている。

図28. 西区伊奴神社



墓地に4本幹立でそのうち最大幹まわり3.0m, 樹齢300年程度のツブラジィが生育している。主幹は腐朽が進行し樹皮は灰白色で平滑,これを母樹として付近に子樹と思われる2本が生育している。かって,矢田川が現地より南を流れていたこともあり,守山のツブラジイ群集の仲間と考えられっよ。

図29. 東区長母寺





1500年代織田氏居城の末森城跡に鎮座した城山八幡宮にあった幹まわり 2.5mのシイノキが、公園の一角に残っている。堅果が採集できなかったた め樹種は特定できないが、幹まわり2.9mと2.2mのツブラジイとの記録があ る(名古屋市教育委員会、1970).

図30. 千種区城山公園

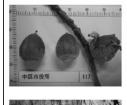






深井丸に5本のスダジイ(名古屋城管理事務所)が生育し、そのうち1本 は根元まわり5.1mの古木で樹形は崩れている。また、二の丸庭園の後山に 幹まわり3.3mのツブラジイの古木が1本生育している。庭園築造時に植え られたものとすれば樹齢300年程度で、樹肌は赤味を帯び瘤が顕著である。

図31. 中区名古屋城深井丸・二の丸







昭和14年の市庁舎建設時,既に大きく生育していたもので,幹まわり 3.17m樹齢250年程と思われる。市役所では最高齢の樹木である。堅果はお むすび型で大きく,形状からは一見ツブラジイと見間違えるがスダジイで ある。

図32. 中区市役所



三の丸庭園東の名古屋城外堀土塁に3本のスダジイが生育している。1本 は古木で根元から2本に分岐し、幹まわり1.58m・1.84m、根元まわり5m で、いずれも竪果は大型で丸みがある。土塁には火除け等のため植えられ たと考えられる。

図33. 中区三の丸庭園



図34. 東区久屋大通り公園



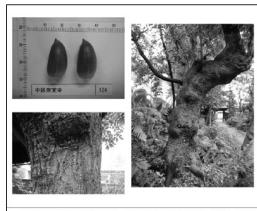
江戸時代清寿院後庭で、古墳を中心として鬱蒼とした森であったとの記録がある(神戸(編)、1935)、双幹で幹まわり2.96m・1.98m、根元まわり6.5mのスダジイの巨樹を始め3本生育している。市内で最大級の一つである。斜面地で表土の流失が見られる。

図35. 中区那古野山公園



大須の市街地にある神社で、本殿奥に幹まわり3m余、樹齢200年とも300年とも思われる巨樹が保存されている。立ち入れなかったがスダジイと思われる。江戸時代には2本の大樹があったとの記録がある(神戸(編),1935).

図36. 中区富士浅間神社



山門を潜ると敷石の参道に沿って3本のスダジイが生育している。空間が狭く、他の庭木とともによく手が入れられている。1本は古木で幹まわり1.42mであるが幹の瘤が年代を感じさせている。

図37. 中区崇覚寺



教化センター前に幹まわり2.07mのスダジイの大径木が1本保存されている、十分な生育空間があり、枝張りと樹冠は発達しているが、根元が埋められ、シイノキ独特の根張りの強さは見られない。

図38. 中区東本願寺







江戸時代、東本願寺御庭であり、当時の名残のクスやムクなどの大樹が 園内に生育している、北側に2本のスダジイが生育しており、1本は幹まわ り2.24mの双幹で蘚苔類を湛えた古木である。

図39. 中区下茶屋公園







境内が道路で東西に分断され、本殿から離れた東側に幹まわり2.11mの スダジイが生育している。樹形は荒々しく堅果が大きい、既成市街地にあ り、枝打ち等によって衰退することが危惧される。

図40. 中村区八幡社





既成市街地にあり、本堂西側の墓地内に幹まわり2.2mのシイの古木が生育している。 強度な管理が行われており胴吹きも多く成長は抑えられている。 堅果が採集できなかったたがスダジイと思われる.

図41. 中村区正賢寺







境内の南側に残された二次林に幹まわり1.48mを始め3本のスダジイが生育している。堅果が特に大きいことから,植栽されたものが実生更新して生育しているものと思われる。

図42. 天白区善光寺







山門を潜ると正面に幹まわり2.8mのツブラジイの古木が保存されている。 棚皮は深く製け白色を帯び、コルク質が顕著に発達している。他のシイノ キとの差異は驚異である。近くに2本のシイノキの古木が残されているが、 1本は枯れている。

図43. 昭和区香積院





かっては茶席を有した古民家であったが、現在は銀行の研修所となっている。玄関入口付近に2本のツブラジイが単幹通直で美しい姿を呈している。直接計測できなかったが、幹回りは概ね1.9mである。自然の風雅を思わせる樹姿は住宅地に落ち着きを与えている。

図44. 瑞穂区暮雨巷

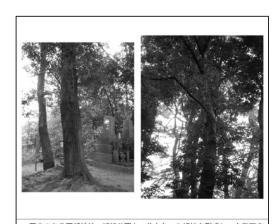


公園事務所前と隣接する寺院塀に沿って幹まわり2.12mを始めスダジイが数本生育している. 植栽された公園樹で適度に樹木管理が行われている.

図45. 熱田区熱田神宮公園

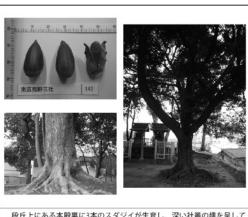


図46. 熱田区高座結御子神社



歴史のある戸部神社、呼続公園と一体となった緑地を形成し、本堂西方 の墓地内に幹まわり1.12mのシイノキが1本が生育している、堅果が採集で きなかったがスダジイと思われる。

図47. 南区長楽寺



段丘上にある本殿裏に3本のスダジイが生育し,深い社議の建を呈して いる。最大のものは幹まわり2.95mで根張りは顕著で根元から株立ち状に 小幹が数本立っている。東が崖地で名鉄に接しており,管理上枝打ちされ ている。

図48. 南区熊野三社



図49. 南区七所神社



平地にあり、本殿を囲う板塀の内側に3本のスダジイが生育している。 内に入れないため目測で幹まわり2.5mを超えると思われる。本殿を覆うの 樹冠は鎮守の森の象徴として存在感を示している。

図50. 南区星崎喚續神社





本殿を取り巻く二次林の北東隅に、胸高位で双幹となる幹まわり2.12m のスダジイが1本生育している、健全で堅果の生産も良いため、これを母 樹として今後シイ林が発達する可能性がある。

図51. 緑区有松天神社







豊跡の山頂付近にスダジイが2本生育している。母樹は高さ1.5mで幹が2 本に分岐し幹まわり3.65mで,その北側に子樹と思われる若い木がある。 丸根岩の歴史を偲ばせる保存すべき樹木である。

図52. 緑区丸根砦







本殿脇に幹まわり1.5mの古木と、落葉樹林の中に壮齢のスダジイが2本 生育している、実生が育っており、今後シイ林へ発達することが予測され る、過去の文献にある近在の諏訪山諏訪社にはなかった。

図53. 緑区諏訪社







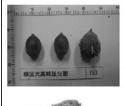
入口階段から山門を潜った所に、幹まわり3.29mのスダジイが生育している。腐れもなく樹勢は旺盛だが、境内の砂利敷き広場にあり路圧被害の不安がある。

図54. 緑区万福寺



事務所駐車場前の自然林の中にシイノキの大径木(種は不明)が生育している。単幹通直で樹高が20m程あり、樹冠を広げた雄大な自然形のシイノキである。

図55. 緑区大高久野邸







戦国時代からの史跡で、小高い丘稜地形上に幹まわり2.72mのツブラジイの大径木が残っている。胸高で双幹となり内1本は腐朽が進んでいる。樹下には祠が祀られており歴史を偲ぶ樹木である。

図56. 緑区大高城址公園







明治36年公園整備時に植栽されたスダジイ.伊勢湾台風で大きな被害を受けたが、現在も30本程度生育している. 堅果はほとんど長楕円形であるが、1本はズングリ型である.

図57. 中村区中村公園







南側駐車場付近の墓地にあり、根元で幹が3本に分岐し内1本は3.32m (芯に腐れが進行)の古木である、保存樹の標柱がツブラジイとなってい るがスダジイである。この地区の多くの社寺にはスダジイが主木として植 栽されている。

図58. 中区栄国寺



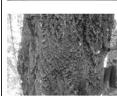




ランの鮑の調査看板によると、かって松坂屋の東(久屋南小学校か?) にあり、久屋大通りの整備にかかったため現地に移植されたとある。移植 前は根元から双幹で樹齢400年といわれ、名古屋では最古の一つとされる。 現地はツブラジイとあるがスダジイである。

図59. 中区ランの館







弥富町緑ヶ岡のマンション出入り口に2本の巨樹が残っている。堅果は 黒色の小粒でやや長細く先端部が反り返り尖っており、中間種で自然由来 のものと思われる。幹まわり2.38mと3.38mの巨樹で樹齢200年を超え、八 事区画整理以前のものと思われる。

図60. 瑞穂区八事風致地区屋敷林







自然林が残る南山町のマンション出入り口付近に、幹まわり3.30mのツ ブラジイが残っている。道路沿いにも関わらず枝打ちされず健全に生育し ている、八事地区風取保存の趣意が、この樹木を残した力になっていると 思う。

図61. 昭和区八事風致地区屋敷林